

第3学年1組 道徳指導案

- 1 主題名 弱さや醜さの克服〔内容項目D－(22)：よりよく生きる喜び〕 (1時間完了)
〈資料名 「揺れるコスモス」 出典：本校校長自作資料改作〉

2 ねらい

過去の過ちに対する償いの気持ちで美化委員の仕事に取り組む主人公の心情に迫り、後ろめたい気持ちはありながらも新しい自分、強い自分に生まれ変わろうとする主人公の心の葛藤について考えることを通して、自分自身のもつ弱さや醜さと向き合い、それらを乗り越え克服しようという道徳的実践意欲を育てる。

3 ねらいとする道徳的価値

人間だれしも弱さや醜さをもっているものである。弱さや醜さを克服し、よりよい自分になるためには、まず自分の中にあるそれらを認識しなくてはいけない。それが克服の第一歩であり、自分自身の成長、また新しい自分の創造につながっていくのである。

中学生という年齢は、自分の弱さや醜さから目をそらしがちで、それらを克服しようという強い気持ちをもつことが難しい時期である。あるいは自分の弱さや醜さを認めつつも、それらをさらけ出してしまうことへの羞恥心が先行してしまうことが多く、それらを隠したり偽ったりしてしまう。

本時を通して、人間だれしも弱さや醜さがあるのだということ、まただれもがそれらを克服し、よりよい人間になろうという気持ちがあることに気づかせたい。過去の過ちに対する償いの気持ちで今を一生懸命に過ごす主人公の心情に迫ることで、自分の弱さや醜さを克服し、よりよい自分になろうという気持ちを育てたい。

4 ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態と願い

(1) 学級について

学級発足時に『ダンデライオン』という級訓を掲げ、それを合い言葉とし、日々の生活を送っている。『ダンデライオン』とは“たんぼぼ”のことである。非常に生命力が強く、厳しい環境下でも生きていくことができる植物で、その“たんぼぼ”にならって、どんなにつらいことや苦しいことがあっても、前を向いて頑張っていこうという意味が込められている。

本学級には、欠席した生徒の仕事を代わりに引き受けたり、授業中や休み時間に友達のわからない問題を親身になって解いて教えたりするなど、思いやりのある生徒が多い。さらに、2年生のときに、学校外で問題行動を重ねてきた抽出生徒Aに対し、距離をおかず、学級のみんなで見守っていこうという意識を声かけや接し方から感じることができる。遅刻の多かったAが遅刻をせずに登校し始めたときには、学級のみんなで祝福をし、応援する姿がたいへん印象的であった。思いやりのある学級であるが、個々を見ると、提出物の期限が守られなかったり、受験勉強に前向きに取り組めなかったりするなど、自分自身に対する甘えや怠惰な気持ちをもつ生徒も少なくない。いけないとは知りつつ、また自分の弱点だと知りつつも、克服しようとする強い気持ちをもつことができない現状がある。

本時を通して、過去の過ちを反省をし、今を一生懸命に生きる主人公の心情をとらえることで、だれもが犯すであろう失敗や間違いにとらわれすぎず、それを挽回すべく、未来に向けて、目の前のことに精一杯取り組もうとする強い心を育てたい。

(2) 抽出生徒について

① 抽出生徒Aについて

Aは教科リーダーとして、課題の回収や次の時間の連絡を責任もって行っている。まじめに活動しているAであるが、過去に学校外で問題行動を起こし、学校から足が遠のいたことがある。3年生になり、進路を考える中で進学意識が高まり、学習にも一生懸命取り組もうという姿が見られ始めた。また、2年生途中からは遅刻が目立つ生徒であったが、3年生1学期の終わりに

は遅刻がほとんどなくなった。過去の過ちに対する後悔の気持ちがあるのかどうかはわからないが、現在は何事にも前向きに学校生活を送っている。道徳の時間には、他の生徒では考えつかないような視点から主人公の心情について思いをめぐらせ、級友が多様な価値観を学ぶ機会をつくっている。本時では、Aに過去の過ちを償おうとして今を一生懸命過ごす主人公の心情について考えさせ、自分の体験と照らし合わせることで自分自身を見つめ直させたい。また、自ら問題点や弱さを認識し、それらを克服しようとする意志の強さを育てたい。

②抽出生徒Bについて

Bは給食委員として、毎日の給食準備、後片付けに一生懸命取り組んでいる。以前野球のクラブチームに所属していたBであるが、2年生の途中で辞めてしまった。けがをしたことも一因ではあるが、けがから回復しても、そこから這い上がれなかったB自身の気持ちの弱さも大きな要因となっている。本人がどれほど意識しているかはわからないが、野球を挫折してしまった影響はことのほか大きいと、Bの母親は語っている。それ以降、部活動や学習にもなかなか意欲的に取り組めないでいる。失敗や間違いを後悔しながらも、今自分にできることに一生懸命打ち込む主人公の生きざまにふれさせることで、Bにこれからは挫折せず、頑張りぬこうという気持ちを高めさせたい。

5 資料について

(1) 資料の概要

主人公の健作は学級で美化委員を努めている。美化委員の仕事の一つである夏休み中の学級花壇の世話のために学級で当番をつくり、都合のつかない級友の分まで引き受けて精一杯取り組んでいた。小学校5年生のときに、クラスメイトである敏夫とのささいなけんかをきっかけとして、親友の真一と一緒に、敏夫が世話をしていた学級花壇の花を摘み取ってしまった。その敏夫に対しての償いの意味もあって美化委員を務め、健作は一生懸命学級花壇の世話をしているのである。

夏休み明けの学級会で「夏休みの反省」を発表していたとき、健作に当番を頼んだ真一が小学校5年生のときのことをちらつかせてきた。過去の償いのために花壇の世話を頑張っている健作にとっては、触れてほしくない過去である。仲良しだった真一がどうしてそんなことをするのか、たまらない怒りがこみ上げてきた健作は真一に近づき、胸ぐらをつかんで「いいかげんにしろよ。」と叫んでしまう。気がつくまで学級の生徒すべてが自分を見つめており、いたたまれなくなった健作は教室を後にする。

(2) 「耳をすまして、学びを拓く」ための資料の生かし方

①他者との対話をさせるための手だて


過去に過ちを犯しながらも、償いの気持ちで今できることに取り組む主人公の心情を考えさせる場面で、意図的に抽出生徒Aを指名し、自分の将来について考え始め、気持ちを入れ替えて頑張ろうとするAの思いや考えを全体に共有させる。教師が、Aの日ごろの頑張りにふれながら、償うことの意味、今頑張っていることのすばらしさ、大切さについてどう考えるかについて、他の生徒の意見を聞いていく。中心発問で教室を後にしてしまった主人公にかける言葉を考えさせるときに、真一に対する意見が出た場合、健作のこれまでの頑張りや健作が頑張ろうと考えた理由について再度問い直すことで、よりよく生きることの大切さ、美しさについての価値観を育てたい。

②自己内対話をさせるための手だて

授業のはじめに自分が今までにしてきた失敗や間違いにふれることで、だれでも失敗や間違いはあるのだという認識をもたせる。そのうえで失敗や間違いがありながらも、その罪を償うためや、次に失敗したり、間違えたりしないように頑張っている主人公の行為の美しさについて考えさせたい。また、中心発問で教室を後にしてしまった主人公にかける言葉を考えさせる中で、「どういう気持ち(思い)でその言葉をかけるのか」と教師が切り返すことで、自分の中にある価値観と向き合わせ、自己内対話を深めさせたい。振り返りの場面で、授業の感想を抽出生徒Bに発表させ、その意見を肯定的に受け止め、励ますことで、どこかでつまずきながらも一生懸命生き

ることの大切さ、美しさについて考えさせたい。

6 板書計画

<ul style="list-style-type: none"> ・真一なんてほっとけよ。 ・暴力はいけないよ。 ・もう一回頑張ろう。 ・敏夫に謝ってみたら。 ・今やめてしまったらこれまでの頑張りが無駄になるよ。 ・最後までやり遂げないと、ずっと後悔することになるよ。 	<p>○教室を出ていった健作に、あなたならどう声をかけるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・花を枯らしてはいけない ・仕事に対する責任感 ・過去に自分のしてしまったことに対して後悔・反省 心を入れ替えて ・敏夫の花壇を台無しにしたことに対して償いの気持ち 	<p>○健作が盆休みもなくなるほど花壇の世話をがんばったのはなぜか。</p>	<p>揺れるコスモス</p> <p>○登場人物はだれで、どんな人か。</p>	 <p>健作 真一 敏夫</p> <p>美化委員 花壇の世話</p> <p>お盆休みもなしで 花壇の世話</p> <p>小学校のとき、敏夫が大切に世話をしていた花壇の花を全部摘み取る。</p>
--	------------------------------------	---	--	--	---

7 本時の展開

時間	学習活動	※教師支援 ☆評価
1	<p>今までにだれかに迷惑をかけるような失敗や間違いをしたことがあるか。</p>	<p>※事前にアンケートをとり、何人かの生徒に経験したことを聞くことで、だれもが失敗や間違いをするのだという認識をもたせる。</p>
	<p>試合中、パスをミスして負けてしまったこと。</p> <p>ゲームソフトを借りたまま未だに返していないこと。</p> <p>集合時刻に遅れて、友達を待たせてしまったこと。</p>	
7	<p>○資料の範読を聞く。</p> <p>登場人物はだれで、どんな人か。</p>	<p>※健作と敏夫との関係において、過去に敏夫が大切に育てた花壇の花を、健作と真一がすべて摘み取ったことを押さえることで、次の発問で「償い」という価値を引き出す。(①C:気づかせる)</p>
	<p>健作。 過去の過ちに対する「償い」の気持ちで美化委員を頑張っている。</p> <p>真一。 友達なのに健作のふれられたくない過去をばらそうとしている。</p> <p>敏夫。 健作と真一に花壇の花を摘み取られてしまった過去がある。(①)</p>	
15	<p>健作が、盆休みもなくなるほど花壇の世話をがんばったのはなぜか。</p>	<p>※「後悔」や「心を入れ替えて」というキーワードが出たときに、板書でそれらを強調することで、主発問で抽出生徒Aが健作にかかる言葉を考えるときの一助とする。(②B:生かす)</p>
	<p>○意見交流する。</p> <p>自分の仕事に責任をもってきちんと取り組もうという気持ち。</p> <p>敏夫の花壇の花を摘み取ったことに対する償いの気持ち。</p> <p>コンクールのためにも花を枯らしてはいけないという気持ち。</p> <p>過ちは犯したが、心を入れ替えて頑張ろうという気持ち。(②)</p>	

教室を出ていった健作に、あなたはどの声をかけるか。

○話し合う。

昔のことをぐちぐち言う真一なんて、放っておけよ。(③)

昔のこと言われたくらいで怒るなよ。しかも暴力をしたらいけないよ。

これまで頑張ってきたのだから、気にしないでもう一回頑張ろうよ。

気になっているなら一度敏夫に謝ってみたら。それからまた頑張ってみようよ。

何のために今まで頑張ってきたの。今やめてしまったら、今までの頑張りがむだになってしまうよ。もう一度頑張ろう。

ここでやめてしまったら無責任だよ。償うつもりでやってきたのに、今花壇の世話をやめたら敏夫への償いにはならないよ。

※抽出生徒Aを意図的に指名し、過去の過ちを償おうと、委員会の仕事に専念する健作への言葉かけや、その裏にある心情を考えさせることで、過去に失敗や間違いはあっても、今を一生懸命生きることの大切さに気づかせる。

※真一に対する意見を肯定的に受け止めながら、「どのような気持ちでそのような言葉を言ったの」と問い直すことで、その言葉の背景にある健作の頑張りに対する評価を聞き出す。(③E: さぐりを入れる)

○振り返りをする。

「健作のように、過去に間違いや失敗はありながらも、心を入れ替えて頑張ってきた経験があるか。あるいは、健作の生き様をどう感じたか。」と振り返りの視点を指示する。記述時に机間指導を行い、「失敗や間違いにとらわれず、今を一生懸命に生きていこう」などのねらいに迫った意見を把握する。こうした意見をもった生徒を意図的に指名し、紹介することでよりよく生きていく大切さに気づかせる。

※抽出生徒Bに感想を発表させ、その思いを肯定的に受け止めることで、B自身のよりよく生きていこうという意欲を高めることができるようにする。(④B: 認める)

○振り返りを発表する。

過去に過ちがあったとしても、これからを大切に過ごしていこう。

だれでも間違いや失敗はあるけれど、これからの頑張りが大切だ。(④)

過去に過ちを犯しながらも、償いの気持ちで今を一生懸命生きる健作の気持ちや、教室を出てしまった健作にかける言葉を考えながら、だれもがある失敗や間違いにとらわれすぎず、今を一生懸命に生きていこうとする気持ち、またそのような頑張りを支えていこうという気持ちを高めた姿。

☆健作の心情や健作にかける言葉を考えることで、過去の過ちにとらわれず、今をよりよく生きていくことの大切さに気づくことができたか。

(発言、ワークシート)

授業の視点

- ① 意図的に抽出生徒Aを指名し、以前と比べたAの意識の変容や今の頑張りについて学級で共有したり、④で「償う」ために心を入れ替えて頑張ってきた健作を肯定的に受け止めている生徒の発言を取り上げて共有したりしたことは、ねらいとする価値観に迫るために有効であったか。
- ② 教室を出ていった健作に自分であればどのような言葉をかけるかを考えさせたことは、健作のこれまでの頑張りを認め、励ます気持ちを高めると同時に、自分がよりよく生きようとする価値観の育成をするうえで有効であったか。